

松木日向緑地プログラム 松木日向緑地の竹林整備

連携団体 ひなた緑地遊学会

2022年10月29日（土）

報告

秋晴れの竹林整備

10月29日(土)、「地域ボランティアプログラム（松木日向緑地プログラム）」の活動として、都立大・南大沢キャンパス内にある松木日向緑地の竹林整備活動3回目を行いました。学生ボランティアは6名(メンバー5名、サポーター1名)の参加でした。前回に引き続き、「ひなた緑地遊学会」の二人にご協力いただき伐採作業の指導をしていただきました。

当日は秋晴れの爽やかな空のもと、落葉樹が赤・黄色に紅葉し始め、落ち葉やどんぐりが地面に広がってきました。緑地斜面の小径を下ると東側の雑木林との間は竹林を5m幅で伐採し空間が設けられ、竹林の浸食から雑木林を保護していました。

竹林に入り、まずは今回初めて参加した2名のメンバーのグループと伐採経験有4名の2つのグループに分かれて作業を開始しました。初参加の2名は遊学会の北出さんからの丁寧な指導のもと、ノコギリによる伐採作業で竹を受け口・追い口と切って倒し、玉切り・枝払い、集積の作業を学びました。もう1グループの4名は、遊学会の橋上さんからのアドバイスのもと、数多くの竹の伐採作業に行いました。背の高い竹を倒す際には、大声で「倒れるぞ」や「倒れます」と大声で言って注意を喚起しました。直径10cm以上、高さ20メートルにもなる竹を倒す醍醐味は格別で、皆が協力して作業を分担し合いました。

作業を進めるに従って、秋晴れの中、汗ばみ上着を脱ぐような暑さとなり、休憩時には水分補給を十分に行いました。

活動の様子



竹が倒れる際
「倒れるぞ」
「倒れます」
大きな声で
注意喚起



今回の活動場所



首都大学東京・東京都立大学 ひなたブック製作委員会『ひなたブック』,2007より

竹林に新たな日差し・空間

2時間近い作業で多くの竹を伐採し、見える景色も変化し、新たな植生に有意義な日差し空間も生まれました。

最後に竹林伐採作業を指導した「ひなた緑地遊学会」の方から、「最近では年金支給開始年齢が年々60歳→65歳に上昇し、年金支給額も減少しました。少子高齢化も進み、60歳代は70歳まで働き続け、60歳代で引退してボランティア活動に勤しむ人々が減りました。竹林整備の次世代への継承を考えると、皆さんのような若い人々に竹林整備を是非とも継続して欲しい」というような話をいただきました。

活動後、松木日向緑地の斜面の小径を登ると、青く澄んだ秋空、枯葉が舞う集合場所にて、振り返りを行い、終了しました。

参加者の声

- 今回は参加者が6人ということで少数体制だったので、今までの活動で一番多い4、5本の竹を切ることができたからです。切る時は必ず遊学会さんや他のメンバーに見守られながら切り倒すことができ、安全に楽しく行えました。
- のこぎりの扱いにも慣れてきて、あまり手こずること無く竹を切ることができた。
- 参加人数が6人と少なかったのですが、竹伐採は順調に進んだと思います。
- 2回目ということもあり、竹を切ることに慣れ、スムーズに行うことができ、竹を切る技術を向上できた。
- 竹林の状況について、実際の現場を見て理解することができた。竹の切り方、処理の仕方の基本は理解・習得ができた。
- 竹の切り方を丁寧に教えてもらいながら、学ぶことができた。もう少し連携してできるようになりたい。